

「水戸のわら納豆」を未来へつなぐプロジェクト

1 地域の課題（目指す地域の姿）

納豆のまち、水戸を代表する観光土産品「わら納豆」は、平安末期の伝承にある糸引き納豆の原型を今にとどめる特産品です。わら納豆を包む「わらつと」は、かつて農家の副業のひとつとして広く作られていましたが、農業の機械化によりわらつと生産者が減少しています。このため、平成29年度には市内納豆製造事業者から将来のわら苞確保に向けた要望が寄せられました。この課題に対し、農業と福祉の連携、いわゆる「農福連携」の観点を導入し、納豆のまち、水戸のわら納豆を未来につなげるため、農業者、福祉サービス事業所、納豆事業者を中心に「水戸市わら納豆推進協議会」が組織され、福祉の「福」、稲わらの「藁」をとって「福藁プロジェクト」と命名し、生産体制の整備、わら納豆のPRを図っています。

2 プロジェクトの概要

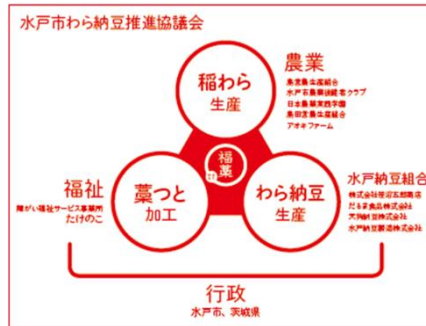
【農福連携による「わらつと」づくり】

「わらつと」づくりの3つの工程それぞれにおいて、推進協議会に参画する農家が①米作りの際の稲わらの収集、②乾燥を行い、福祉サービス事業所「たけのこ」が③わらつと加工を行い、納豆事業者へ供給します。このプロジェクトを通じて作られたわらつとは「福藁」と呼ばれ、ブランドロゴとともに、水戸のわら納豆のブランディングを図っています。

「福藁」ブランドロゴ



福藁プロジェクト関連図



3 企業様のメリット

その1：水戸を代表する特産品「水戸のわら納豆」を応援する企業様のイメージアップにつながります。

その2：広報もと、水戸市HPへ企業様のお名前を掲載します。

その3：水戸市長から企業様への感謝状贈呈式を行います。

その際に、マスコミ各社へプレスリリースを行います。

